様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 3 日現在

機関番号：３４３１５
研究種目：若手研究（B）
研究期間：2010～2012
課題番号：２２７２００３９
研究課題名（和文）１７－１９世紀通信使・燕行使の交流と日中韓の知のネットワーク
研究課題名（英文）Intellectual Network of Japan/China/Korea and Interchange of Tongshinsa(通信使)・Yoenhaengsa(燕行使) in 17-19century

研究代表者
李　豪潤（LEE HOYUN）
立命館大学・文学部・助教
研究者番号：５０５１３１６５

研究成果の概要（和文）：
本研究 17－19 世紀の日中韓の儒学思想の展開を中心に、東アジア知識人の対外観および交流史を明らかにした研究である。殊に 17－19 世紀の日本・中国・韓国の知識人・民衆の交流および、書籍の移動に伴う知の連鎖・知のネットワークを通じて東アジア思想空間を総合的に研究するきわめて重要な位置を占めている。そして、本研究で試みた 17－19 世紀の中国の思想展開と朝鮮王朝・徳川思想の比較研究は、近代以降のそれぞれの歴史展開の分岐をより明確に理解する上でも重要な課題であろう。

研究成果の概要（英文）：
It is a research center in the development of Confucianism thought of China, Japan, Korea of 17-19 century the present study, revealed the interaction history and appearance versus East Asian intellectuals. And exchange of knowledge people, people of Japan, China, Korea 17-19 century in particular, accounting for a pivotal position to study a comprehensive East Asian thought space through a network of chain and intellectual knowledge associated with the movement of the book are. And, comparative study of the Joseon Dynasty, Tokugawa thought and thought development of China 17-19 century attempted in this study, would be an important issue even understanding more clearly the branch of history deployment of each of the modern era .

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2010 年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2011 年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2012 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総　計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：哲学、思想史
キーワード：　対外関係史・通信使・燕行使・思想史・華夷思想

１．研究開始当初の背景

研究代表者は、17－19 世紀の近世日韓における儒学思想史および、儒学的対外観の研究に従事してきた。それらの成果は、拙稿「一八世紀における朝鮮王朝の自他認識―安鼎福の思想を中心に」（『日本思想史研究会会報』20 号、平成 15 年）「山崎闇斎の『神代』認識に関する一考察―朝鮮の儒者安鼎福の上古認識との比較を通じて」（『立命館史学』24 号、平成 15 年）「一九世紀『対外危機』における朝鮮王朝の思想的反応―崔益鉉の思想を中心に」（『立命館文学』582 号、平成 16 年）「近世における日韓思想の比較研究―明清交替後の東アジアにおける自他認識の展開と転回」（立命館大学博士学位論文、平成 16 年）、「雨森芳洲と通信使－『誠心』外交論再考－」（『「日本型社会論」の射程－「帝国化」する世界の中で－』文理閣、平成 17 年）、「山崎闇斎学派における中国夷狄論争」（『日語日文学』30 号、平成 18 年）、「近世における日朝の外交と思想―『朝鮮通信使』再考」（『東アジアの思想と文化』1 号、平成 18 年）などとして公刊されてきた。この研究を通じて対外観の基盤となっている 17－19 世紀の東アジアの思想空間自体の共時的展開の解明が課題となった。例えば、思想交流および近世日中韓の自他認識研究において欠かせない存在である外交使節団研究の場合、1607 年から 1811 年まで、朝鮮王朝から江戸幕府に 12 回派遣された「朝鮮通信使」の研究は、戦後「日韓友好論」などにより、活発に研究され、膨大な成果を残していることに対して、1645 年から 1876 年まで、612 回朝鮮王朝から清朝へ派遣された「燕行史」の研究はあまりにも乏しい。さらに「朝鮮通信使」の研究は「日本史」あるいは「日韓関係史」研究者が主に行い、「燕行使」の研究は「中国史」あるいは「中韓関係史」の研究者が取り扱うことで、近世日中韓の人的・物的交流や知のネットワークの総合的な把握が不可能になっている。本研究は、こうした事情に鑑み、この間の日韓思想史研究で得られた智見を基礎に、明・清思想とのネットワークを射程に入れつつ、近世期における人々の交流や知のネットワークがもたらした影響について、思想史的に明らかにしようとするものである。

２．研究の目的

本研究は、近世中国・韓国・日本を直接訪れた人々が残した史料や日本・中国・韓国の外交文書・実録などを中心に近世の知識人の交流および、知のネットワークを明らかにすることを目的とする。すなわち、従来日本史・中国史・韓国史の領域で個別的に研究されてきた、1607 年から 1811 年まで、朝鮮王朝から江戸幕府に 12 回派遣された「朝鮮通信使」と 1645 年から 1876 年まで、612 回朝鮮王朝から清朝へ派遣された「燕行史＝朝貢使」などを東アジア共時的視点という研究方法を用い、共域圏のルート上の交流及び影響関係を総合的に分析し、近世期における人々の交流や知のネットワークがもたらした影響について、思想史的に明らかにしようとすることが研究目的である。

３．研究の方法

この研究は、思想史、とくに日本思想史の方法を用いて行われる。当該テーマに関わっては、韓国思想史研究においては、韓国思想のみを取り扱った個別の成果が存在し（河宇鳳氏など）、また日本においても荒野泰典氏、ロナルド・トビ氏らの外交史研究、藤田覚氏らの政治史的研究が東アジアの中の徳川日本の位置づけを解明してきた。だが、思想史

的方法を用いての研究は、阿部吉雄氏や澤井啓一氏、荻生茂博氏などが貴重な成果を挙げてきたにも拘わらず、未だ圧倒的に立ち遅れている。本研究は、この間急速に成果を挙げている韓国思想研究の成果を土台として、日中韓の比較思想史研究・韓国日本思想史研究・東洋史研究とも連携しながら、緊密な日中韓の研究者ネットワークをより一層充実させ、国際学術研究の中に徳川思想研究を位置づけていくものとなる。

具体的には、以下のように研究を推進した。

①東アジア思想文化研究会の定例開催と中国・韓国の研究者とのネットワークの構築。

②毎年研究成果を取りまとめ、『東アジアの思想と文化』４－６号として刊行。

③文献史料を中心とした資料収集と解読・分析とその一部の史料紹介としての公刊。

④中国を中心とする東アジアにおける当該研究に関する研究史を取りまとめ、研究文献目録として公刊する。

⑤中国を中心とする東アジアにおける当該研究に関わる版本・稿本などの収集・撮影に努め、必要に応じてデータベース化。

⑥最終的に研究成果を取りまとめ日韓両国で『近世東アジアの思想と文化』と題する研究書を公刊予定。

４．研究成果

研究代表者は 「『天学考』紹介」(2010 年 10 月)、「16 世紀朝鮮知識人の『中国』認識―許筠の『朝天記』を中心に」(2011 年 3 月)、「『天学問答』紹介」(2011 年 10 月)、「韓国における日本思想史研究」(2012 年 3 月)、「日本朱子学と吸江寺」(2013 年 3 月)の５本の論文を公刊した。そして杉田敦著『権力（思考のフロンティア)』(岩波書店、2000)を韓国語翻訳し、韓国幹林大学校日本学研究叢書として出した（2013 年 8 月公刊予定)。そして、研究代表者や研究協力者が定期的に意見交換を行なう日本思想史研究会(合計 144 回)・東アジア思想文化研究会(合計 43 回)・立命館大学コリア研究センター月例研究会(合計 24 回)に定期的に参加し、日本在住、および海外の研究者から報告が行われ、東アジアにおける知のネットワークに関する多様な論点について理解が深められた。また、立命館大学コリア研究センター次世代研究者フォーラム(2011 年 8 月 2 日～8 月 4 日、立命館大学)、日韓次世代学術フォーラム第 8 回国際学術大会(2011 年 8 月 22 日～23 日、韓国東亜大学校)、第 63 回朝鮮学会大会(2012 年 10 月 6 日～10 月 7 日、福岡大学)、朝鮮大学校朝鮮問題研究センター設立 1 周年記念シンポジウム(2012 年 11 月 10 日～11 月 11 日、朝鮮大学校)に参加し、東アジアから集まった研究者・院生と意見交換を行った。さらに、立命館大学コリア研究センター月例研究会報告(2010 年 5 月 19 日、立命館大学)、日本史研究会例会研究報告(2011 年 3 月 26 日、京都機関紙会館五階会議室)、韓国日本近代学会第 23 回国際学術大会研究報告(2011 年 5 月 14 日、韓国東義大学校)、東アジア文化交渉学会第 4 回国際学術大会研究報告(2012 年 5 月 12 日、韓国高麗大学校)を行い、近世東アジアにおける知のネットワークについて研鑽を深め、相互の議論を行った。これらと並行して、東京・福岡・高知(日本)、ソウル・釜山(韓国)・ホーチミン・ハノイ・フエ(ベトナム)において対外関係・交流史跡フィールドワーク、及び最近の対外関係についての研究書等、史料・書籍の蒐集を行った。そしてこれまでに蒐集された史料、研究書の整理

と分析を進め、それをほぼ完了した。こうした研究代表者の科学研究費補助金を得ての研究は、東アジア的観点からの思想史・交流史の立ち遅れを克服するものとして一定の成果を挙げたものと確信している。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計５件）

① 著者名：李豪潤、論文標題：雨森芳洲と誠心外交、雑誌名：東アジアの思想と文化、査読：有、巻：5、発行年：2013、ページ：121－141
② 著者名：李豪潤、論文標題：「天学問答」紹介、雑誌名：東アジアの思想と文化、査読：有、巻：４、発行年：2012、ページ：207－218
③ 著者名：李豪潤、論文標題：韓国における日本思想史研究、雑誌名：日本史研究、査読：有、巻：590、発行年：2011、ページ：31－48
④ 著者名：李豪潤、論文標題：16 世紀朝鮮知識人の「中国」認識－許筠の『朝天記』を中心に」、雑誌名：コリア研究、査読：有、巻：2、発行年：2011、ページ：81－96
⑤ 著者名：李豪潤、論文標題：「天学考」紹介、雑誌名：東アジアの思想と文化、査読：有、巻：3、発行年：2010、ページ：80－92

〔学会発表〕（計４件）

① 発表者名：李豪潤、発表標題：16 世紀心学思想の展開と藤原惺窩、学会名等：東アジア交渉学会第 4 回国際学術大会、発表年月日：2012 年 5 月 12 日、発表場所：高麗大学校（韓国）
② 発表者名：李豪潤、発表標題：16 世紀東アジアの思想空間と藤原惺窩、学会名等：韓国日本近代学会第 23 回国際学術大会、発表年月日：2011 年 5 月 14 日、発表場所：東義大学校（韓国）
③ 発表者名：李豪潤、発表標題：韓国における日本思想史研究とトランスナショナル・ヒストリーの可能性、学会名等：日本史研究会 2011 年 3 月例会、発表年月日：2011 年 3 月 26 日、発表場所： 機関紙会館会議室（京都市）
④ 発表者名：李豪潤、発表標題：近世における通信使・燕行使の交流と東アジアの知のネットワーク、学会名等：立命館大学コリア研究センター月例研究会、発表年月日：2010 年 5 月 19 日、発表場所：立命館大学（京都市）

〔図書〕（計１件）

① 著者名：杉田敦著・李豪潤訳、出版社名：幹林大学校出版部、書名：権力、発行年：2013、総ページ数：110

６．研究組織
(1)研究代表者
李　豪潤（LEE HOYUN）
立命館大学・文学部・助教
研究者番号：50513165

(2)研究分担者
なし　　（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
なし　　（　　）

研究者番号：